

受講から終了までの Schedule



プログラムに関するQ&A

Q1

受講のための選考基準は何ですか？

応募者多数の場合は、願書に添付していただく志望動機書により審査し、受講生を決定します。

Q2

福祉や介護についての基礎知識は事前に必要ですか？

事前の知識・経験は問いません。各コースに意欲をもって参加しようとする方はどなたでも応募いただけます。

募集要項

募集コース

高齢者介護を支える人材の資質・意欲向上研修コース(1年間)一定員 20 名
 障害者の就労促進と就労場所提供者育成研修コース(1年間)一定員 10 名
 ※所要単位を取得するとコース修了証が授与されます。

受講資格

高等学校既卒者※で2009年4月1日現在に満18歳以上の方。
 応募多数の場合は、学び直し事業評価委員会において書類審査を行います。
 ※同等以上の学力があると認められた方や、外国籍の方も応募可能です。
 ※書類審査に関するお問い合わせには一切お答えできませんのでご了承ください。

応募期間

2009年1月7日～2009年2月6日(募集締切)

お問合せ

神戸学院大学

社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム事業事務室

TEL 078-974-6210

FAX 078-974-6296

E-mail manabi@j.kobegakuin.ac.jp

お問合せ・お申込みに関する詳細は、神戸学院大学ホームページから本プログラム専用ホームページをご覧ください。

<http://www.kobegakuin.ac.jp/> (神戸学院大学ホームページ)

〈交通のご案内〉

有瀬キャンパスへの交通アクセス

JR神戸線「明石駅」下車
 JR神戸線「明石駅」北側バス停「北①番」のりばから、神姫バス「神戸学院大学行」に
 乗車し、神戸学院大学前下車(所要時間約20分)

JR神戸線「朝霧駅」下車
 JR神戸線「朝霧駅」北側バス停のりばから神姫バス「神戸学院大学行」に乗り、
 神戸学院大学前下車(所要時間約10分)

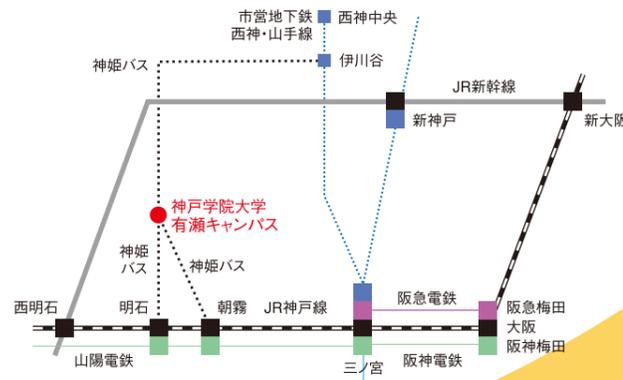
JR新幹線「西明石駅」より車で20分

市営地下鉄「伊川谷駅」下車
 「伊川谷駅」駅前バス停「④番」のりばから、神姫バス「神戸学院大学経由明石駅行」
 に乗車し、神戸学院大学前下車(所要時間約10分)

お車で越しの場合 ●第二神明道路 大蔵谷I.C.から北側すぐ

ポートアイランドキャンパスへの交通アクセス

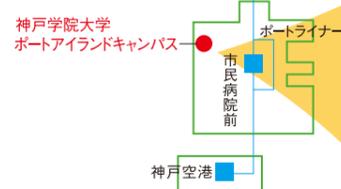
神戸新交通ポートライナー「市民病院前」駅下車
 市民病院前駅より、西へ徒歩約6分



有瀬キャンパス図書館



ポートアイランドキャンパス図書館



総合リハビリテーション学部で学ぶ 社会人の学び直しニーズ対応 教育推進プログラム

文部科学省委託事業

2009年4月スタート 受講料無料



誰かの支えを
 必要としている
 人のために



大学ならではの 多彩なカリキュラムで、 1年間じっくり学び直す。

福祉や介護の仕事に興味があるが、
どこで学ばよいか分からない。
また、改めてそうした仕事に就けるようチャレンジしたい。
そんな社会人の方のニーズに応えた講座
「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」が、
神戸学院大学総合リハビリテーション学部にあります。

社会人の学び直しニーズ対応 教育推進プログラムとは

「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」は、文部科学省の委託事業として2008年4月より開講。社会人の方であれば無料で受講していただけるプログラムです。学ぶ方の目的によって「高齢者介護を支える人材の資質・意欲向上研修コース」と「障害者の就労促進と就労場所提供者育成研修コース」の2つのコースがあり、それぞれの受講期間は1年間となっております。
※ 応募多数の場合は、学び直し事業評価委員会において書類審査を行ないます。

「高齢者介護を支える人材の資質・意欲向上研修コース」について

既存のホームヘルパー養成や介護福祉士養成研修と比べて、大学ならではのより幅広い教育を受けることができます。受講後、修了者が意欲をもって、介護業務を自ら考え実践できるような教育プログラムが組まれています。
コース修了後は、高齢者介護に関する深い理解及び高い知識と技術をもって、特別養護老人ホーム、通所介護事業所、訪問介護等の介護に関わる事業所への就業と、就労先におけるリーダーシップの発揮が期待されます。

「障害者の就労促進と就労場所提供者育成研修コース」について

社会保障、社会福祉の基礎的な考え方に加えて、経営的な視点も合わせた教育科目を学習します。また、教育プログラムを進めるとともに、地元行政機関や各種団体などと協働して、障害者の新たな就労場所や生活支援の方法について受講生が考える機会も提供します。
障害者の生活基盤である共同作業所や授産施設への就業の道が期待されます。また、一般企業における障害者の就職促進に関する方法論や地域活動に活かす知識も同時に身に付きます。

教育プログラムの内容と単位認定

受講期間は、両コースとも4月～3月までの1年間、
講義は神戸市西区の有瀬キャンパスで行います。
この間、授業の他に受講登録科目の定期試験を受けることができ、
合格すれば正規の単位として認定されます。
また、教育プログラムの各コースとも、修了所要単位を22単位とし、
その単位を満たした受講生にはコース修了証が発行されます。

神戸学院大学で開講されている
共通教育科目・専門教育科目で、
大学学部生と共に受講します。

共通教育科目
リベラルアーツ科目群

人文科学分野
ジェンダー論(2)

社会科学分野
法と社会I(2)

現代の経営I(2)

現代の社会(2)

健康科学分野
健康科学入門(2)

食の科学I(2)

薬の科学I(2)

環境の科学I(2)

現代の医療と福祉I(2)

現代の障害者問題(2)

こころの科学(2)

ヒトの科学(2)

総合リハビリテーション学部
専門教育科目

救急医学(1)

人権と医療(1)

福祉生活環境論A(2)

福祉生活環境論B(2)

福祉生活環境論C(2)

福祉生活環境論D(2)

福祉生活環境論E(2)

福祉生活環境論F(2)

福祉生活環境論G(2)

福祉生活環境論H(2)

福祉生活環境論I(2)

福祉生活環境論J(2)

福祉生活環境論K(2)

福祉生活環境論L(2)

福祉生活環境論M(2)

主な教室・設備 受講生の皆様が学ぶ予定の教室をいくつかご紹介します。



大教室：本学正規科目などの受講に際して使用する教室です。



屋内環境実習室：日常生活場面における動作についての実習に使用する予定です。



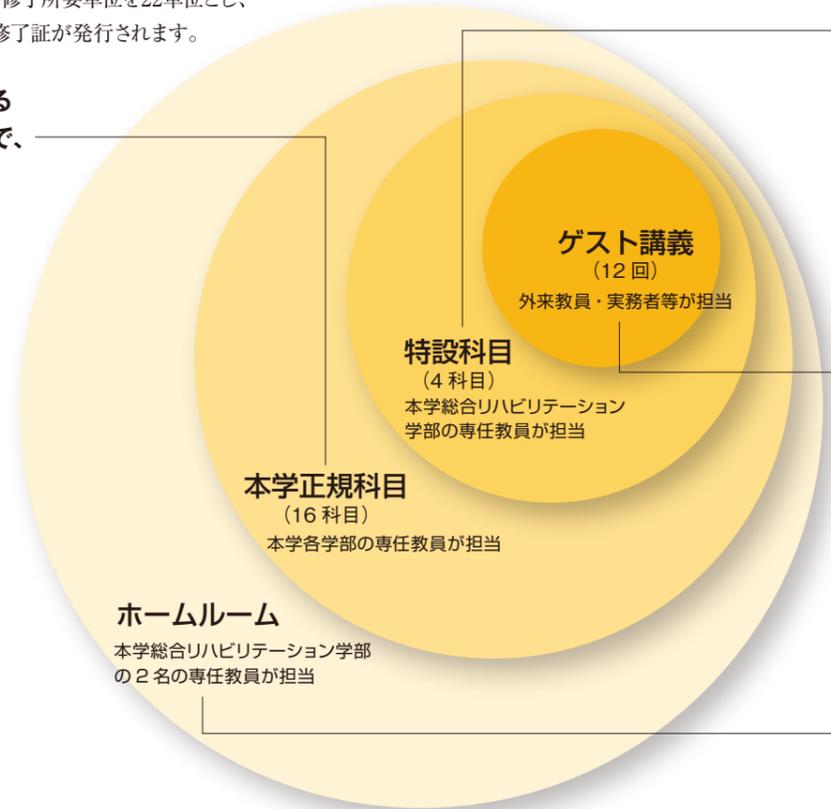
講義(座学)の様子



受講の様子



運動療法実習室：体の動かし方や介助の方法についての
実技に使用する予定です。



この教育プログラムの
ために開講する科目で、
各コース受講生のみが
受講します。

リハビリテーション・介護論(2)
高齢者リハビリテーション実技(2)
障害児・者リハビリテーション実技(2)
障害者の就労特論(2)

高齢者介護・障害者の
就労促進の成功事例等。

外来教員・実務者による実践論(2)

教育プログラムの
学修成果を上げるため、
各コース受講生と
担当教員で実施します。

総合リハビリテーション学部専任
教員が担当(2)

※()内は単位数

受講生のみなさんへ Message



総合リハビリテーション学部
准教授
(学び直しプログラム実行委員長)
備酒 伸彦

人の暮らしに直接関わる介護や、生活支援の方法は時代と共に変わっていきます。一時として立ち止まることのない介護や生活支援を担うためには、時代に合った確かな観察力と想像力、そして逞しい実践力が求められます。この学び直しプログラムはそのような力を育むために用意されたものです。

本学正規科目では、学部生と共に基礎的な「学」に触れていただきます。特設科目とゲスト講義は、このプログラムのためだけに用意したもので、これらでは応用的な「力」を身につけていただきます。「学」と「力」をより深めていただくために、本学が誇る図書館も存分にお使いいただけます。

また、皆様の学習をスムーズに進めるためにホームルームを開設し、教員が身近にいる環境も整えました。本プログラムを足がかりにして、皆様の手で、より良い介護と生活支援を創り出していただくことを本学の教職員一同が願っております。

たくさんの方が本プログラムにご応募くださいますことを、心よりお待ちしております。



総合リハビリテーション学部
教授
黒田 大治郎

「障害者の就労促進と就労場所提供者育成研修コース」について

障害があっても積極的に社会参加し、生き活きと生活をされる姿は他の人々に勇気や希望を与えます。また障害者の多くは福祉的就労から一般就労への移行、企業での就労を望んでいますが「働く」という社会参加への挑戦をする時には、様々な問題に直面します。

この状況、障害者の地域で自立した生活を支え、改善に向かわせる重要な取り組みの一つが「就労支援」です。そこで本プログラムでは障害者の就労・雇用・自立生活を支援するため、大学ならではの福祉・保健・医療に関わる多彩なカリキュラムを生かして、在宅就労や地域就労の支援、障害者の雇用促進、地域生活の自立支援のために蓄積された経験の指導、ノウハウ等の専門性の継承・発展を学べるようにしていきます。

あわせて総合的で幅広い能力を備えた就労支援人材の育成を目指して、障害者の立場だけでなく、企業の立場も理解した信頼関係が築け、地域の社会資源や支援機関とネットワークを構築して、効率的に活用するなどの支援技術のスキルアップを図っていきます。

